

令和6年度第1回青森市急病センター運営審議会 会議概要

日 時：令和7年2月28日（金）19時～19時25分

場 所：青森市役所本庁舎 2階 庁議室

出席委員：小谷健児委員（議長）、千葉武揚委員、石澤義也委員、川嶋啓明委員、
高橋敏之委員、高屋誠吾委員、中野高広委員、近井宏樹委員、
村上靖委員（代理：増村勲消防次長）《計9名》

欠席委員：福田真奈美委員《1名》

事務局：保健部長 千葉康伸、保健部青森市保健所長 野村由美子
保健部次長 加福拓志、保健予防課長 福士秀徳
保健予防課主幹 杉野淳、保健予防課主幹 渡邊希
保健予防課主査 木村聡、保健予防課主事 阿部優翔 《計8名》

+++++

【会議次第】

- 1 開会
- 2 青森市長あいさつ
- 3 議事 青森市急病センターの運営について
- 4 閉会

【会議要旨】

議事

○青森市急病センターの運営について

⇒事務局から資料1、資料2のとおり説明があった。

意見・質疑応答

- (議長) 事務局の説明に、質問や意見はありませんか。
- (委員) 昨年、急病センターを利用した際、大変混雑している中、医師や看護師、事務員の皆さんには丁寧に対応していただき、急病センターがあつて良かったと感じた。年末年始の9連休の中、急病センター、市民病院、県立中央病院それぞれのスタッフの方にご尽力いただいたことに感謝したい。
- (委員) 今年も9連休となるが、当院では年末の病床を空けるよう院内でお願いしようと思っている。
- 急病センターの運営審議会だけではなく、二次輪番病院など市内の有床の病院と連携を強化して、連休前に話し合いが必要ではないか。
- (委員) 10月か11月ぐらいに今回どうするか相談する場があつたほうがいい。
- (委員) 浪岡病院では救急で来られる方は少ないが、これほど青森市内で大変な思いをしているとは知らなかった。市民病院へ紹介した患者もあり、皆さんのご尽力に感謝申し上げる。
- (委員) 当院も年末年始はベッドが空くことが多く、救急患者をなるべく受け入れるようにしており、県病で受けられない場合には、対応できるよう努力していきたい。
- (委員) 年末、外科で急病センターに勤務したが、内科に小児科の倍ぐらいの患者が来院されたので、内科の患者を診察した。年末年始は受診者が増え、医師だけでなく医療スタッフが上手く噛み合わないといけないので、それに対応できる診療体制とするよう調整が必要ではないか。
- (委員) 年末年始は薬剤師も2人体制にしてもらったが、診療が終わってから薬を処方するので、1月3日、4日は日付を超えた。
- 来年度の年末年始もそうだが、医薬品の供給を心配している。今のところカロナール、アセトアミノフェンは落ち着いているが、鎮咳剤、去痰剤関係は、いつ入らなくなるかと非常に懸念している。これは青森市だけでなく全国的な話なので、対策を取るのは難しいが、早め早めに医薬品の供給だけはしておいたほうがいい。
- (委員) 年末年始は、やはり救急車の要請件数が増える。今年度は予備の救急車1台を配備して11台体制で対応したが、それでも11台目が出動するというケースもあつた。
- 消防本部で行っている救急病院紹介では、急病センターで小児科が休診となる月曜日に小児科の問合せが非常に多く、他の曜日の2倍くらいになっている。ホームページや広報あおもりでも紹介されているが、月曜日に受診可能にしてもらえれば非常に助かる。
- (議長) その他に、ご意見、ご質問等ありませんでしょうか。
- 他にございませんようですので、それでは皆様にお諮りしたいと思います。
- 先ほど事務局から説明のありました、青森急病センターの運営についてご異議はございませんでしょうか。
- (委員) 異議なし